

のだった。

### △ 全従業員主義上の反対闘争と

#### 現実的生活問題解決の運動との本質的並行

然し従業員は激辛の判断と正確なる時局に対する認識を以て、総罷業に依る戦畧を採らざらば、「製鐵管民合同絶対反対」の又ローガンは主義の上り主張である。製鐵管民合同反対同盟の運動は従業員自身の運動であつた。反対同盟は國家、國民の立場から「敵」に對してこの「製鐵管民合同」には主義の上で絶対反対をすべきであるが、反対同盟は従業員自身の立場から従業員自身の現実生活上の諸問題を解決のためにも斷固として戦つねばならなかつた。従業員の現実的生活問題の解決を無視して、只た単なる主義上の「製鐵管民合同絶対反対」の叫びを唱へるのみ、従業員は實際生活とは無関係の無責任極まる左翼的運動である。従業員自身の運動としては、「敵」「民」の立場から主義上の「製鐵管民合同絶対反対」の闘争に従業員自身の生活上の現実問題解決の運動が必然的に並行して展開されるのは当然である。従業員の運動として本質的に並行する主義上の絶対反対と現実問題の解決と二枚構えになどと唱へるが如きは認識不足と甚大いと言つればならぬ。製鐵管民合同従業員の運動は只た単なる主義主張だけの

運動でもなげれば、亦斷じて無責任なる左翼的政党の運動でもない。全従業員が政党政派を飛び越えて、しかも他人の力に依らず、従業員が自主的に組織を戦つた製鐵管民合同反対の闘争で従業員の實際的な生活問題を無視するこゝから出来るか否かは、製鐵管民合同従業員以外の者には兎に角として、製鐵管民従業員である限りは一目瞭然である。従業員がこの真剣として此列であつた運動も口を極めて悪口雑言を或は二段構えとか、方向轉換と唱へた批難、攻撃の悉くが淡く、政党内流の政畧的並行傳説過ぎなかつたことも、今日の従業員は明白に知つてゐるのである。

### △ 総罷業の戦術と棄てた従業員の愛國的結論

製鐵管民従業員の實際生活に何等關係なき政黨者流の者が半ばは主義上の思想的な優越から製鐵管民従業員の自主的組織を結成し、これに反対同盟で総罷業の遂行を決議し、強き社會的發表を並傳してゐながら、従業員がせよと戦つたが、戦つた方も執拗に批難吐責してゐる。も屈辱のあつたが、全従業員の強き果敢な闘争で従業員が現実生活の諸問題を解決確保した以上、免れざるは、是が非でも総罷業の行つたはならぬと考へるは、共產主義的破壊運動である。当時、従業員の間には総罷業を以て戦ふ可しと云ふ少數の純真正急進的意見